

7年産

「玉葱（パルシステムエコ）」栽培基準

品 種 名	オホーツク222、北もみじ2000
目標粗原反収	5,000kg
目標製品反収	4,480kg
播 種 時 期	2月中旬～3月中旬
定 植 時 期	4月下旬～5月中旬
収 穫 時 期	8月下旬～10月下旬

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
基本作業					播 種																												
					育 苗																												
																							</										

【施肥基準】

肥 料 名	施用量 (kg/10a)	要素量(kg/10a)			
		窒素		リン酸	加里
		N	ON		
① S 121	30kg	3.0		6.0	3.0
S 708(有機質肥料)	170kg	6.8	5.1	17.0	13.6
合 計	200kg	9.8	5.1	23.0	16.6
		14.9			

※ 堆肥が施用できない場合は、必ず上記の「有機質肥料」を基準量施用する。

※ Nは化学肥料、ONは有機態窒素で表示。

【窒素施用量基準】

- ① 総窒素施用量(化学肥料＋有機質肥料)は最大で15kg/10a
- ② 化学肥料施用量は最大で9.9kg/10a
- ③ 有機質肥料施用量(最大) = 15kg - 化学肥料施用量
- ④ 上記の他に、堆肥による施用窒素量は最大で3kg/10a

【基幹防除ローテーションと作業体系】

散 布 時 期	回数	薬 剤 名 お よ び 作 業
定植前	1	カルホス乳剤
4月下旬		定植
5月下旬	2	リーフガード顆粒水和剤
6月中旬	3	フロンサイドSC
6月下旬	4	トクチオン乳剤
	5	シルバキュアフロアブル
7月上旬	6	ディアナSC
	7	カンタスドライフロアブル
	8	スターナ水和剤
7月中旬	9	ストロビーフロアブル
7月下旬	10	グレーシア乳剤
		バクテサイド水和剤
8月上旬(倒伏期)		コサイド3000
8月中下旬		根切り(倒伏期から10～15日後)
8月中下旬	11	フロンサイドSC(根切り後)
9月上旬	12	スミレックス水和剤
9月中旬	13	パレード20フロアブル
9月中旬		収穫(根切り後2週間前後)

【農薬使用基準】

項 目	適 用 病 害 虫 名	農 薬 名	使用濃度 (倍)	10a当り薬量 (水100L)	適 正 使 用 基 準 使用時期	成分 回数	成分 カウント	RAC コード
殺虫剤	タマネギバエ	カルホス乳剤	500	育苗箱1箱当り0.5L	定植前	1	1	I:1B
	アザミウマ類・ネギハモグリバエ	ディアナSC	2,500	40ml	前日	2	1	I:5
	アザミウマ類	トクチオン乳剤	1,000	100ml	7日	4	1	I:1B
	ネギアザミウマ・ネギハモグリバエ	グレーシア乳剤	2,000	50ml	7日	2	1	I:30
		リーフガード顆粒水和剤	1,500	66g	3日	3	1	I:14
殺菌剤	べと病・灰色かび病 灰色腐敗病	フロンサイドSC	1,000	100ml	3日	5	1	F:29
	べと病	ゾーバックエンテクタSE	3,000	33ml	7日	2	2	F:21 F:49
	灰色かび病・灰色腐敗病	ストロビーフロアブル	2,000	50ml	14日	3	1	F:11
	小菌核病 灰色かび病 灰色腐敗病	パレード20フロアブル	2,000	50ml	前日	3	1	F:7
		ミリオネアフロアブル	4,000	25ml	前日	4	1	F:7
		カンタスドライフロアブル	1,500	66g	前日	3	1	F:7
		シルバキュアフロアブル	2,000	50ml	前日	3	1	F:3
		スミレックス水和剤	1,000	100g	前日	5	1	F:2
	軟腐病	スターナ水和剤	1,000	100g	7日	5	1	F:31
		バクテサイド水和剤(抗生物質・銅)	500	200g	7日	5	-	F:M1 F:25 F:41
	軟腐病・りん片腐敗病 灰色かび病・灰色腐敗病	スクレタン水和剤	500	200g	前日	5	1	F:M1 F:2
	軟腐病・りん片腐敗病	クプロシールド	1,000	100ml	-	-	-	F:M1
		コサイド3000	1,000	100g	-	-	-	F:M1

※スミレックス水和剤とスクレタン水和剤は成分としてプロシモンを含む。プロシモンを含む農薬の総使用回数は5回以内。

【土づくり・防除技術】

1. 完熟堆肥(牛ふん麦稈堆肥で3t/10aまで)の施用を基本とする。
2. 土壌診断を実施し、適正施肥を行なう。
3. 灰色かび病(白斑葉枯病)については、初期発生を確認して防除を行う。
4. 灰色腐敗病(貯蔵腐敗)については、倒伏期から収穫前まで3回実施する。
5. 除草剤は使用しない。

【Yes! Clean農薬成分回数基準】

1. 防除基準内で発生状況に応じ、総成分回数で14回まで使用可能。
2. バクテサイド水和剤及びコサイド3000、クプロシールドは、農薬の成分回数としてカウントしない。